

著者紹介（執筆順）

保木邦仁（ほき く にひと）

電気通信大学先端領域教育研究センター特任助教・博士（理学）

金子知適（かねこ ともゆき）

東京大学大学院総合文化研究科准教授・博士（学術）

大槻知史（おおつき ともし）

プログラマ

鶴岡慶雅（つるおか よしまさ）

東京大学大学院工学系研究科准教授・博士（工学）

伊藤毅志（いとう たけし）

電気通信大学情報理工学研究科助教・工学博士

岸本章宏（きしもと あきひろ）

東京工業大学大学院情報理工学研究科数理・計算科学専攻助教
科学技術振興機構さきがけ研究者・PhD in Computing Science

松原 仁（まつばら ひとし）

はこだて未来大学システム情報科学部
複雑系知能学科教授・工学博士

はじめに

本書はコンピュータ将棋に関する研究成果をまとめたシリーズの6巻目になる。前著第5巻が出版されたのは2005年で、副題は「アマトップクラスに迫る」であった。それから7年の間にコンピュータ将棋は順調に強くなってプロ棋士とよい勝負をするレベルに至り、本書の副題を「プロ棋士に並ぶ」とした次第である。その間の最先端の研究をまとめた本書は、シリーズの以前の巻に比べてコンピュータの技術的な話が多くなり（それと同時に将棋自体の話が少なくなって）専門外の人には読みにくくなっているかもしれないが、それだけコンピュータ将棋が進歩して情報処理や人工知能の技術との関連が深くなったということで御了解いただきたい。

第1章は2006年にデビューしていきなりコンピュータ将棋選手権で優勝した「BONANZA」の解説である。このプログラムはコンピュータ将棋のそれまでの常識を変えてその後の進歩のきっかけを作った。このソースプログラムは無償で公開されている。

第2章は同じくソースプログラムが公開されている「GPS将棋」の解説である。2009年のコンピュータ将棋選手権で優勝した強豪である。プロ棋士のタイトル戦の実況解説をしていることでも知られている。

第3章は2009年のコンピュータ将棋選手権で準優勝した「大槻将棋」の解説である。筆者はこのシリーズを読んでコンピュータ将棋の開発を始めたとのことで、そのプログラムが強豪になったことは編者としても非常に感慨深い。

第4章は2010年のコンピュータ将棋選手権で何度目かの優勝を果たした最近の実績でトップの「激指」の最近の工夫に関する解説である。2010年に4つのコンピュータ将棋のプログラムが合議制チーム「あから2010」を組んで清水市代女流王将に挑戦したが、激指はそのチームのキャプテンであった。

第5章は2010年の清水市代女流王将への挑戦において、あから2010で用いられた合議の方法についての解説である。当初は専門家の間でも合議の有効性に疑問が持たれていたが、筆者らは綿密な実験によって合議が有効であることを証明し、あから2010の勝利に貢献した。

第6章は難解で長い詰め将棋を解くプログラムに関する解説である。詰め将棋を解くプログラムは1990年代から盛んに研究されて進歩を続けてきたが、いよいよ存在するほとんどすべての詰め将棋の問題をコンピュータが解けるまでになった。

第7章はプロ棋士とコンピュータとの対戦の記録を資料としてまとめたものである。トッププロ棋士に勝つXデイがそこまで近づいていることがわかっていただけだと思う。

シリーズの第5巻が2005年に出版されてから本巻が出版されるまでに7年という長年月が経過してしまった。予定ではもっと早く出版したかったのだが、編者の怠慢と状況の急激な変化の影響で大幅に遅れてしまった。読者の方々および早くに寄稿していただいた筆者の方々に深くお詫びしたい。もしも情報に遅れた部分があるとすれば、それは筆者の責任ではなく編者の責任である。

先にも書いたように本巻はプロ棋士のレベルに達したコンピュータ将棋の技術的な詳細が述べられており、プログラムの中身に興味のある人にとっては非常に貴重な情報源になると思う。今後のもう一步の頑張りによってシリーズの次の第7巻は「トッププロ棋士に勝つ」という副題にできるものと期待している。

2012年4月4日

まだ雪が降っている函館にて

松原 仁